

2019-13-2 猫 鼻

提出機関：College of Veterinary Medicine
Western University of Health Sciences、USA

症例：ネコ（ドメスティック・ショートヘア）、*Felis catus*、
推定3才、オス、野良

病歴：鼻部の重度腫脹に気づいた近隣住民によって捕獲。

鼻梁に限局性の腫脹、鼻平面背側に潰瘍を認め、潰瘍部はひどく出血していた。また、重度の結膜炎のため目がほとんど開かない状態であった。

治療費及び予後を考慮して安楽殺され、剖検及び狂犬病検査が行われた。

[肉眼所見]

- 削瘦、脱水
- 鼻梁の重度腫大、背部に直径3cmの潰瘍
- 内臓には著変無し

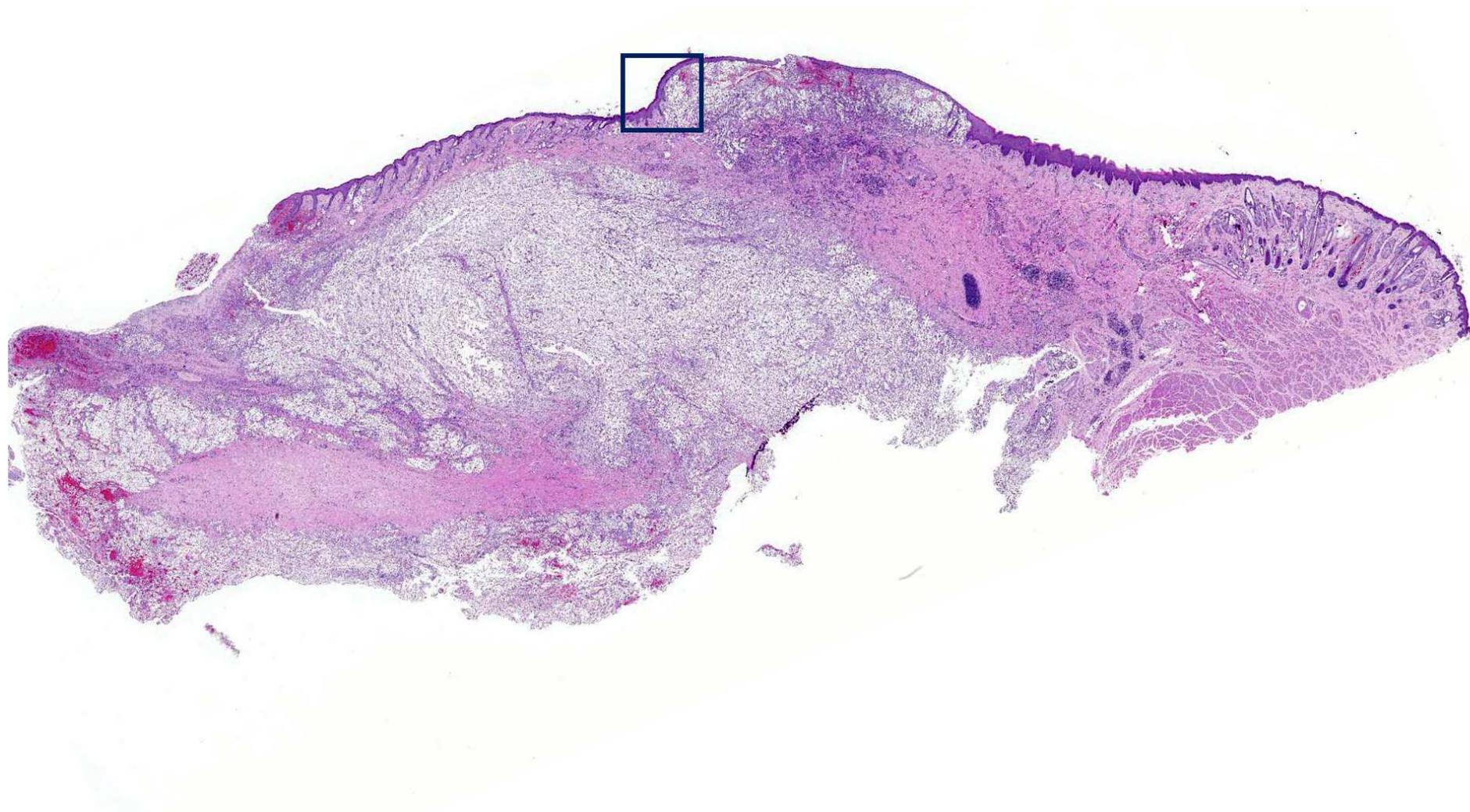
【鼻部腫瘍】

- 鼻平面の背側を拡張・変形させる直径5cmの腫瘍
- 上唇溝は明瞭
- 腫瘍表面の潰瘍は鼻腔まで達する
- 潰瘍部表面は脱落した組織と一部凝固した血液で覆われる
- 腫瘍は硬結、鼻腔内を占め、鼻甲介及び副鼻腔を置換

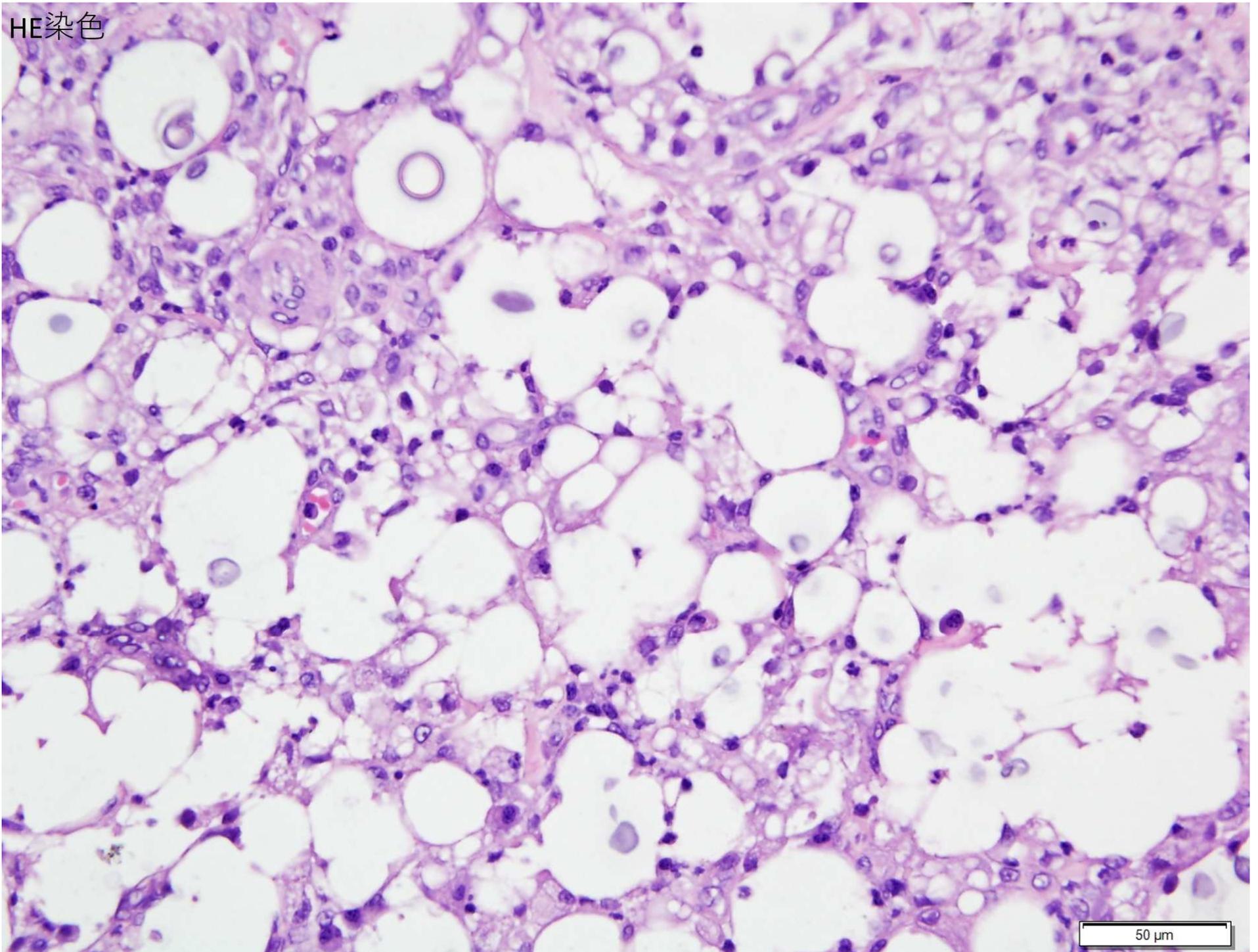
[病原検索]

- 鼻腔スワブのDiff Quick染色で真菌を確認
- 真菌に出芽像は認められず
- 狂犬病は陰性

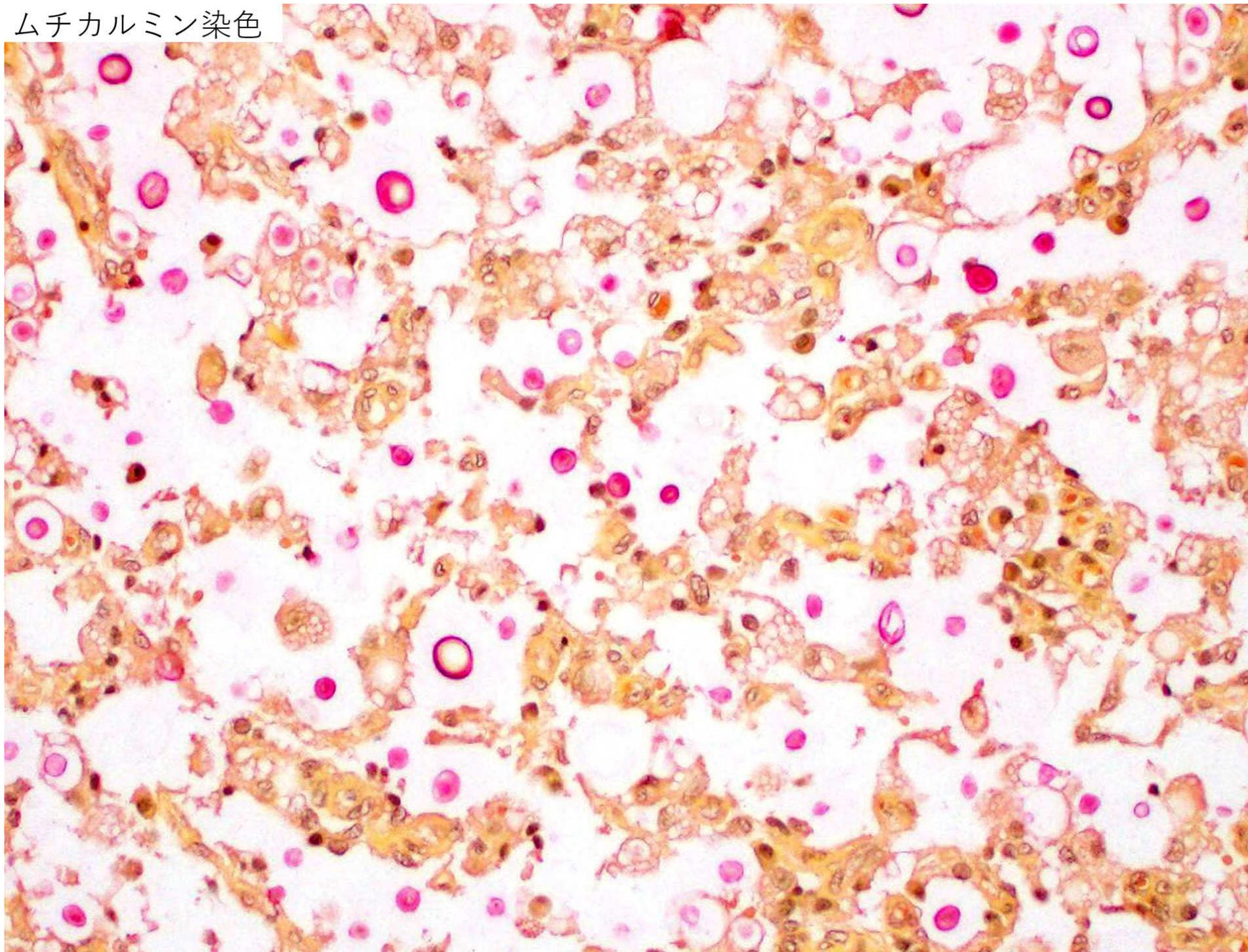
ルーペ拡大像



HE染色



ムチカルミン染色



[提出者の診断]

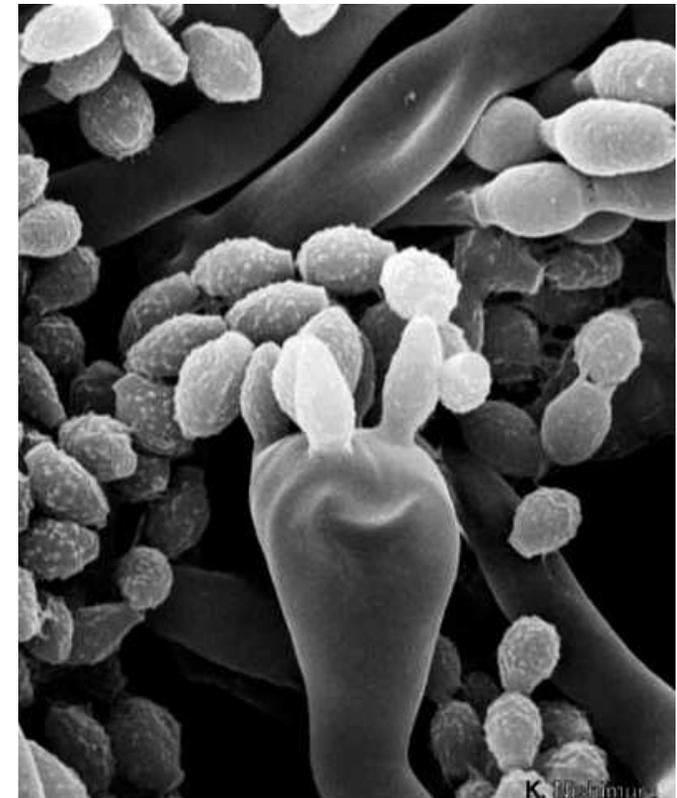
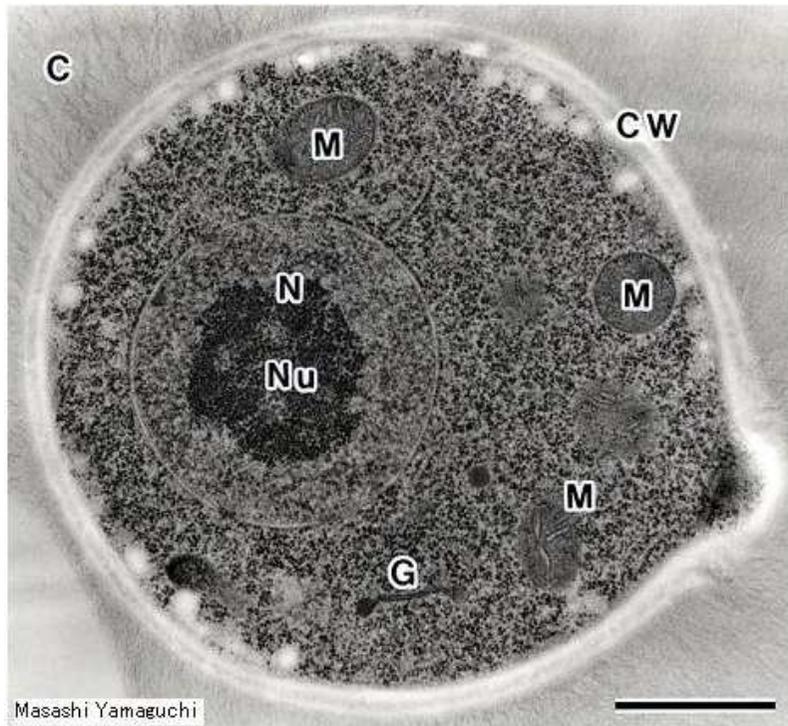
- 鼻平面：慢性、局所的に広範性の、重度の肉芽腫性鼻炎
表面に限局性皮膚潰瘍及び出血を伴う
- Nasal planum: Chronic, locally extensive, severe granulomatous rhinitis with superficial focal dermal ulceration and hemorrhage.

[JPCの診断]

- 粘膜皮膚接合部、鼻：皮膚炎、肉芽腫性、多巣性から癒合性、重度
多数の細胞内および細胞外酵母を伴う
- Mucocutaneous junction, nose: Dermatitis, granulomatous, multifocal to coalescing, severe with numerous intra- and extracellular yeasts.

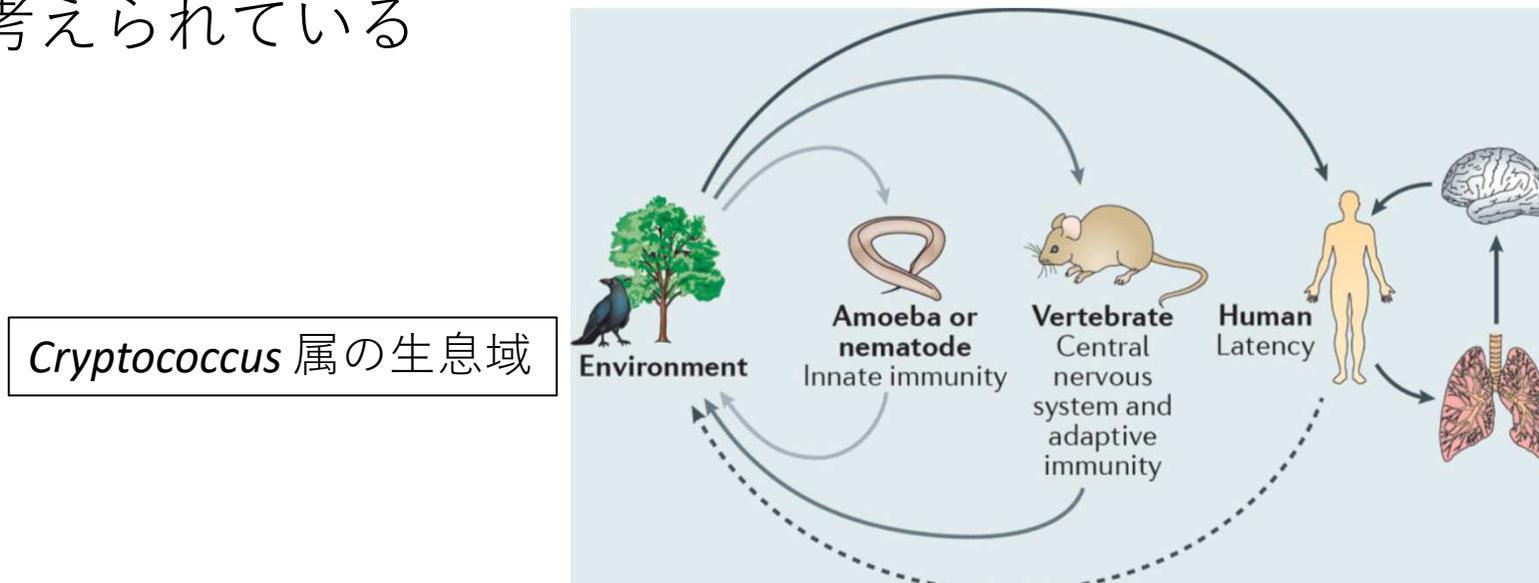
[提出者のコメント： *Cryptococcus* sp.]

- 二形性担子菌
- 無性生殖→酵母様菌から発芽
- 有性生殖→菌糸状に発育し担子胞子を形成
- 糸状菌様の有性世代（完全世代）は「*Filobasidiella*」と呼ばれる
- 酵母様菌は多糖類からなる莢膜を持つ



[提出者のコメント： *Cryptococcus* sp.]

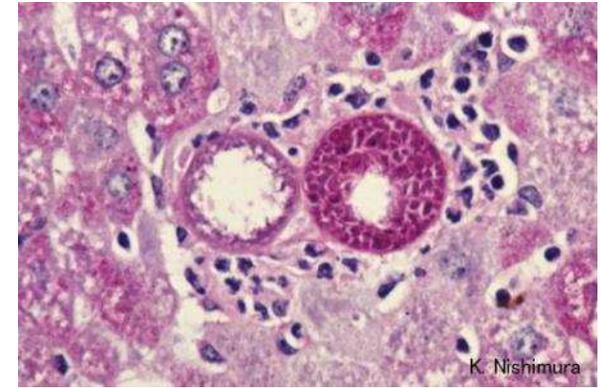
- ネコは高感受性動物
- 上気道のほか、皮膚や中枢神経に病変形成
- 感染動物から他の動物への伝播は確認されていない
- *Cryptococcus*属は約40種が報告
そのうち病原性があるのは*C. neoformans*及び*C. gatti*
- *Cryptococcus*属の中では*C. neoformans* 及び*C. gatti*のみが
ホスホリパーゼとラッカーゼを持っているため、病原因子として考えられている



[提出者のコメント：類症鑑別]

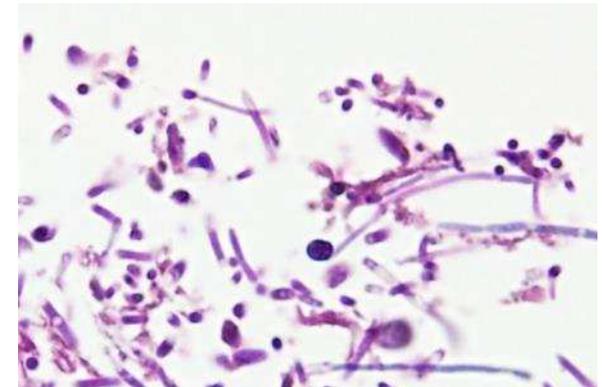
- *Coccidioides immitis*

内部に多数の内生胞子を形成した球状体が認められる



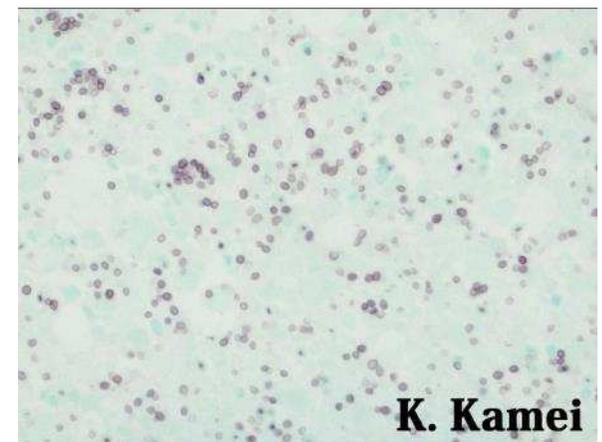
- *Candida sp.*

酵母様菌体のほかに糸状菌様の菌糸がみられる



- *Histoplasma sp.*

通常菌糸状で発育するが感染組織内では酵母状発育をする



[JPCのコメント： *Cryptococcus* sp.]

- 病原性を持つのは*C. neoformans*及び*C. gatti*
- *C. gatti* は免疫不全でない宿主にも病変を形成する
- *C. gatti* はコアラで感染率が高いことが知られており、多くは無症状であるが、発症すると肺炎や脳脊髄炎を示す

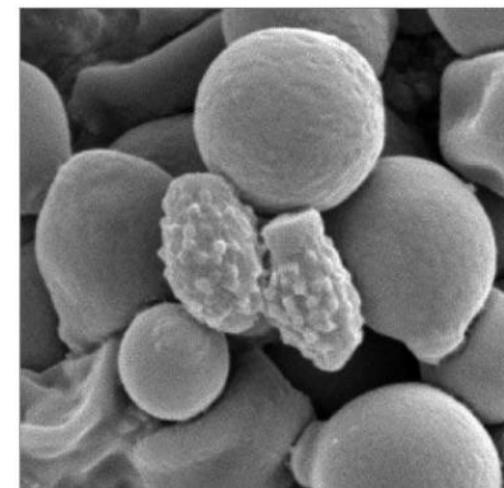


図5：酵母細胞と担子胞子

- *Cryptococcus*属の感染は基本的に呼吸器から
- 通常サイズ（5～7 μ m）ではなく、

乾燥した細胞または胞子（通常5 μ m以下）の形態で、肺の深部まで吸入されると考えられている

[JPCのコメント： *Cryptococcus* sp.]

[宿主体内での形態的变化]

- 「タイタン」細胞

直径12 μ mを超える倍数体細胞。高度に架橋されたカプセルと、キチンを含む肥厚した細胞壁を持ち、貪食されにくい

- 「ドロップ」または「マイクロ」細胞

2~4 μ mで代謝的に不活性。厚い細胞壁を持ち、潜伏感染において重要である可能性が高い

